



2015年3月、病院整備事業を完遂し 自治体病院として市民のいのちと健康を守る

京都市立病院

〒604-8845 京都府京都市中京区壬生東高田町1-2 TEL.075-311-5311(代表)

PD療法を導入した各地の病院を紹介する「ホスピタルレポート」。今回は、都市型急性期病院としての役割を担う「京都市立病院」を訪れ、医師と看護師の皆さんにお話を伺いました。

●より一層市民に親しまれ愛される病院をめざす

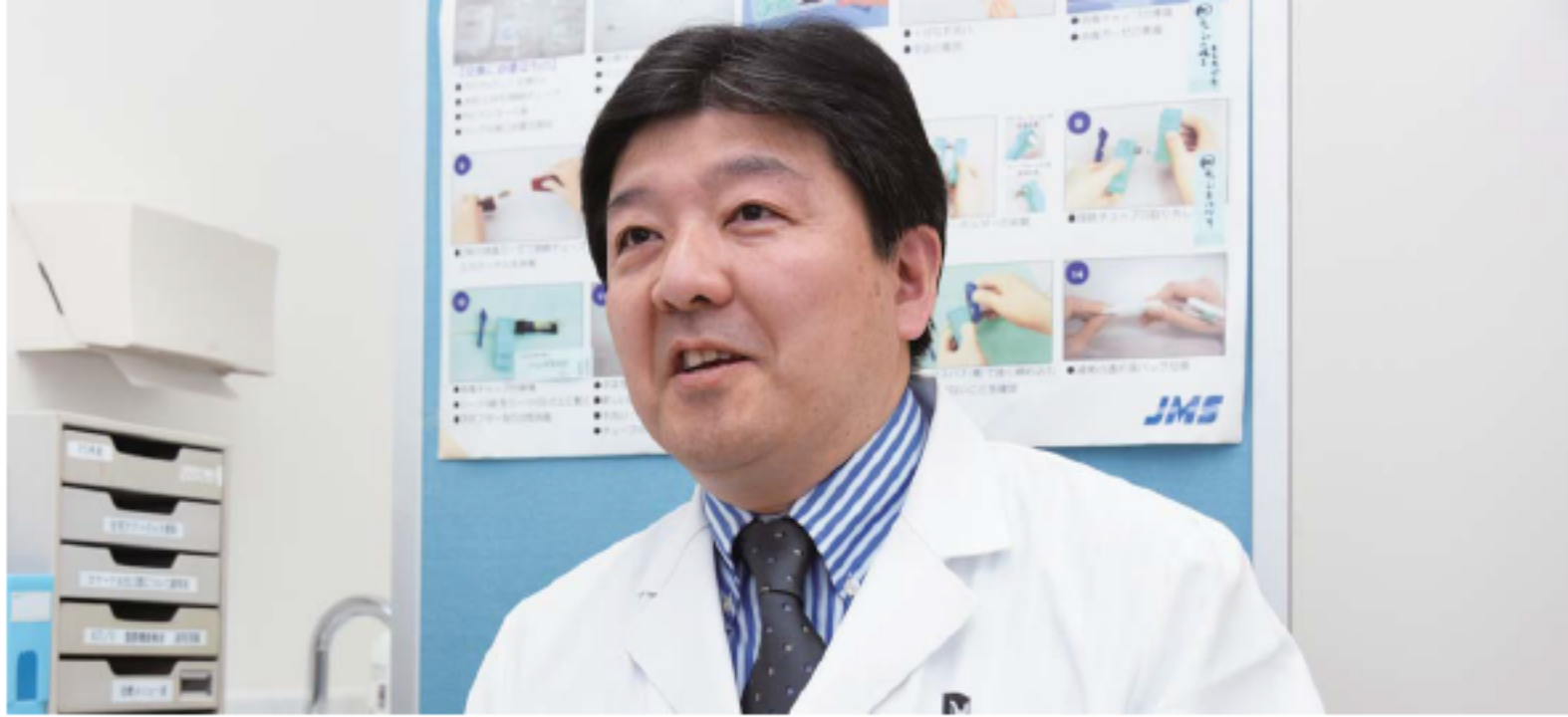
平成23年に地方独立行政法人化された京都市立病院は、効率的な病院運営と患者サービスの向上を目指し、北館の建て替えと本館の改修を行う「京都市立病院整備運営事業」を実施。新館の完成により、政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療、地域医療の支援機能を大きく充実、強化した新しい病院に生まれ変わりました。都市型急性期病院としての役割を担い、「より一層市民に親しまれ、愛される病院づくり」に取り組まれています。

●医療チームのスペシャリティを高めより良い医療を提供したい

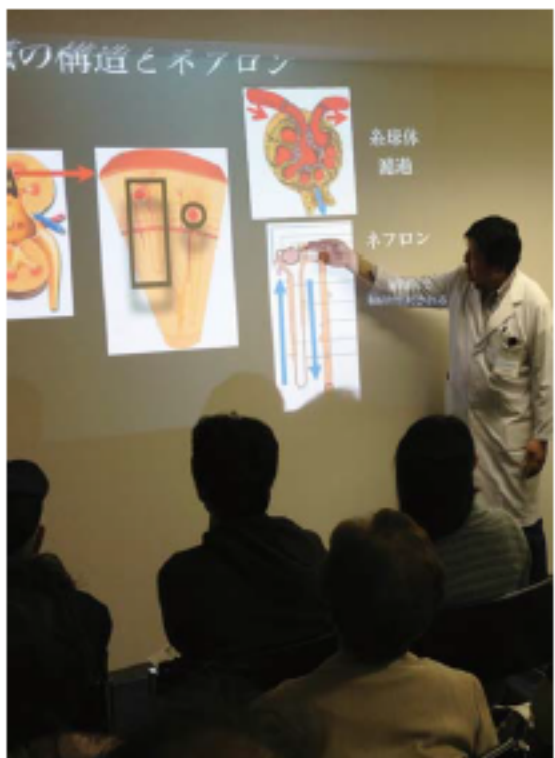
病院整備の一環として、平成25年7月、本館3階に完成した新しい透析室を訪問し、腎臓内科部長として多くの医師や看護師、臨床工学技士を束ねる、家原典之先生にお話を伺いました。

●こちらの透析室では、どのような医療の提供を目指されていますか。
家原先生「患者さんにとって良いことは、どんどん導入する、というのがモットーです。」

私が当院に来てから、まず1年目に透析室の医療チームに話したのが、「多様性に対応しよう」という事でした。



●腎臓内科部長/家原典之先生



●腎臓病教室には、これまで150人以上の人が受講

いまは患者さんの希望も多様化している上に、治療法も多様化している。だからこそ、様々な治療法に精通するよう、ミーティングや勉強会や研修に積極的に参加してもらい、チーム全体のスキルアップに励みました。2年目は、「地域との連携を重視しよう」という事で、色々な講演会を企画し、スタッフにも人前に出て当院の透析室の特徴を説明できるようにしてもらいました。3年目の今年は、「Up to date」が目標です。日進月歩の医療に対応するためにも自分の今までのやり方や知識を新しくして欲しいとお願ひしています。もちろん、すべての分野となると膨大ですから、自分の得意分野においてのスペシャリティを磨いて欲しいと思っています。」

●なるほど、それぞれが得意分野を持って連携を図ることで、チーム全

●体も向上していくのですね。

家原先生「そうですね。私の呼びかけに応えるように、例えばドクターにしても、腎臓病の病理に詳しい医師や、腎臓病教室の運営に熱心な医師、患者指導が得意な医師など、自分の得意な分野を伸ばそうと意欲を燃やしてくれているように思います。その結果として、患者さんにより良い医療を提供していきたいです。」

●患者さんが納得できる療法選択を促すため腎臓病教室を開催

●PDを含めた腎代替療法において、大切なことは何でしょうか。
家原先生「やはり、充分な情報提供をした上で、患者さんご自身のライフスタイルに合った療法選択をして頂くことです。特に若い方には仕事を続け

て欲しいですし、人生を楽しんで欲しい。そのためには、自分で透析できるPDやHD、腎臓移植、それぞれの利点を、患者さん本人がしっかりと理解することが大切です。当院では、その情報提供の一環として昨年3月から腎臓病教室を開催しています。」

●腎臓病教室はどのような内容で開催されていますか。
家原先生「内容は、全3回コースで、奇数月の第2・第3・第4木曜に実施しています。1回目は、医師と薬剤師による腎臓病の解説で、保存期の患者さん向けの内容です。2回目は、栄養士による腎臓病の食事療法の話と、リハビリ運動のレクチャーです。このリハビリ運動は、無理なくできる軽い運動ですが、透析効率が良くなりますので、興味のある方はぜひ教室に来てください。3回目は、腎